

平成31年1月放送総局長定例記者会見要旨**(1) 東日本大震災関連番組 (木田放送総局長)**

NHKスペシャル「“黒い波”～震災8年 明らかになる巨大津波の実像～」

「拝啓 二十歳の自分へ～“震災タイムカプセル”8年目の旅立ち～」

NHKのど自慢スペシャル in 気仙沼

東日本大震災からことし3月で8年。NHKではことしも被災地の課題などをニュースやさまざまな番組で集中してお伝えする。

NHKスペシャルでは「“黒い波”～震災8年 明らかになる巨大津波の実像～」をお伝えする。東日本大震災は、膨大な津波の映像が克明に記録された、初めての大災害だった。陸地に到達した当初は透明だった津波が、そのわずか5分後には真っ黒な色に変わっていた。この“黒い波”はどのように生まれたのか？震災から8年、最新の研究でその正体が次第に明らかになってきた。

当時のまま保管されている黒い海水を専門家が分析したところ、純粋な海水のみだった場合に比べ、海底の大量の土砂を巻き上げ黒くなったことで津波は強い破壊力を持ち、より多くの建物を壊してがれきを巻き込み、このがれきがさらなる大量破壊の連鎖をもたらし、人々の命を奪っていった実態が分かってきた。多くの人たちが異口同音に“黒い”と言い表してきた、巨大津波の脅威を、最新の解析や調査結果を当時の映像や証言と照らし合わせ、初めて明らかにする。

同じくNHKスペシャル「拝啓 二十歳の自分へ～“震災タイムカプセル”8年目の旅立ち～」では、震災直後に岩手県山田町の大沢小学校にタイムカプセルを埋めた子どもたち29人が歩んだ8年間と、20歳の旅立ちの時を見つめる。震災後、多感な10代を厳しい環境の中で生きてきた子どもたちは、今、人生の選択の時を迎えている。8年前にタイムカプセルに収めた、20歳になる自分に宛てた手紙と再会した彼らは、何を思ったのだろうか。

また、3月10日には、復興への歩みを進める宮城県気仙沼市から「NHKのど自慢スペシャル in 気仙沼」を放送する。出場者数と放送時間を拡大して、被災地の「今」を歌声とともにお届けする。これまでさまざまな形で被災地を支援してきたアーティスト“ゆず”が番組に初登場し、被災地への思いを込めたパフォーマンスを披露する。

(詳細は報道資料を参照)

(2) BS4K・8K 2月のラインナップ (木田放送総局長)

BS8Kでは、2月は「自然・絶景」をテーマにした番組を重点的に編成する。

このうち、「南極大冒険」は、2017年12月から2018年3月までのおよそ4か月間、第59次南極地域観測隊の活動に8Kカメラが密着取材した4本のシリーズ。

1本目の「南極観測船しらせ 氷の大地へ」では、観測船しらせが、荒れ狂う海を越え、分厚い氷を砕きながら昭和基地に到着するまでの3週間の船旅を、2本目の「氷の大地で探る 地球の未来」では、海や大気、氷河、湖など各分野のスペシャリストが挑んだ研究の最前線をお伝えする。

また3本目の「密着！ペンギンの楽園」では、アデリーペンギンとコウテイペンギンのたくましい子育ての様子を、4本目の「空から迫る 氷の絶景」では、ヘリコプターから撮影した南極大陸の雄大な景観をお伝えする。手つかずの大自然の中で繰り広げられた科学研究の最前線を、氷河や冰山、オーロラなど圧倒的なスケールの超高精細な映像でお伝えする。

またBS4Kでは、土曜夜のおなじみの番組「ブラタモリ」が、NHKのバラエティー番組として初の4K番組として登場する。放送するのは、去年12月に総合テレビで放送した「東京・豊洲」の回。番組おなじみの定点観測映像「タイムラプス」や、ドローン撮影を駆使して捉えたロング映像により、今も激変し続ける豊洲の姿をダイナミックに描く。4K版「ブラタモリ」は、今後も定期的にお届けする予定だ。

(詳細は報道資料を参照)

(3) ラジオ気象情報 AIアナウンサートライアル放送 (荒木副総局長)

NHKでは、「AIアナウンサー」を新たに開発した。NHKアナウンサーと放送技術研究所の技術を結集し、自動音声によって、実際のアナウンサーのような自然で滑らかな“読み”を実現した。ことし3月、全国に先駆けて甲府放送局のラジオ気象情報で、AIアナウンサーによるトライアル放送を行う。

最大の特徴は、NHKアナウンサーの“読み”を細部まで再現したこと。過去3年分から抜粋した大量の気象関連のテキストデータを、NHKアナウンサーが読み、AIに学習させた。それにより、文脈に合わせた自然なイントネーションや間のとり方などの再現が可能となり、“機械っぽさ”を感じさせない、AIアナウンサーとなった。

今回の取り組みでは、AIアナウンサーが読む気象情報の原稿を自動的に作成できるようにした。通常、アナウンサーが気象情報を伝える際には、気象データの優先順位を判断して内容と順序を決め、放送時間内に収まるように、データを話し言葉にして伝えている。アナウンサーが頭の中で行っている、そうした編集・原稿化の工程も自動化することができた。

NHKが蓄積してきたアナウンス力と技術力を生かし、まずは気象情報に特化して、クオリティの高い自動音声による情報提供を安定的に行うことを目指す。将来的には、AIアナウンサーによるラジオ気象情報を地域の各放送局に広げていき、各放送局のアナウンサーは地元の取材や番組作りなどにパワーをシフトし、地域放送の充実・強化につなげたいと考えている。

(詳細は報道資料を参照)

(4) たけしのその時カメラは回っていた (菅副総局長)

総合テレビでは、2月16日と23日に「映像発掘バラエティー たけしのその時カメラは回っていた」を放送する。NHKが記録映像番組「映像の世紀」などで集めた膨大な歴史映像の中から、偶然や必然によってカメラに収められた映像をピックアップしてクイズ形式で見えていき、知られざるエピソードを楽しんでもらおうという教養バラエティーだ。

MCはビートたけしさん。この100年でカメラが記録した歴史の真実をたけしさんがぶった切る。貴重なアーカイブス映像の面白さを最大限に引き出し、知的好奇心を刺激するエンターテインメント番組。

(詳細は報道資料を参照)

(5) アスリートの魂「“馬力”で切り開けーサッカー日本代表 堂安律ー」 (荒木副総局長)

BS1では、2月15日の「アスリートの魂」で、サッカー日本代表の要の1人として大きな注目を集めている、20歳の堂安律選手を取り上げる。

堂安選手は、昨シーズンからオランダ1部リーグに移籍し、1年目からゴールを量産して、サポーターが選ぶチームのシーズンMVPに輝いた。現在UAEで行われているアジアカップでも、初戦のトルクメニスタン戦で貴重な決勝ゴールを決め、若くしてチームを支える存在になっている。堂安選手は、1メートル72センチとサッカー選手としては小柄ながら、強靱な下半身を武器に「倒れない」プレースタイルが持ち味だ。番組では、陸上でオリンピック出場経験のある「走りのスペシャリスト」とのトレーニングなどに密着。なぜ倒れないのか。堂安選手の“馬力”の秘密に迫る。

(詳細は報道資料を参照)

(6) BS1スペシャル「ボルトとダシャ ～マンホールチルドレン 20年の軌跡～」

(荒木副総局長)

2月9日に放送するBS1スペシャル「ボルトとダシャ」は、モンゴルで「マンホールチルドレン」と呼ばれた貧しい子どもたちの20年を追ったドキュメンタリーだ。

「マンホールチルドレン」とは、マンホールから地下に潜り、そこに張り巡らされた暖房用の温水パイプで寒さをしのぎながらギリギリの生活を送っていた子どもたちのことで、ボルトとダシャもそうした子どもだった。

番組では、1998年、2004年、2008年と3回にわたって、ボルトとダシャの生活や取り巻く環境を継続して放送してきた。2人は、一度はマンホールから脱出し人並みの生活をつかんだものの、ある女性をめぐる仲たがいの末、再びマンホール暮らしに転落してしまう。それからおよそ10年、2人は今、どんな人生を歩いているのか。2人のマンホールチルドレンの20年の軌跡を追う。

(詳細は報道資料を参照)

(7) スーパープレミアム「家族になろうよ ー犬と猫と私たちの未来ー」 (菅副総局長)

BSプレミアムでは、保護された犬や猫たちと新しい家族の出会いをお手伝いする番組「家族になろうよ」を2月23日に放送する。2018年5月に放送し、大きな反響を呼んだ番組を、今回はさらに内容をパワーアップして、三部構成、生放送でお送りする。

第一部ではスタジオで、保護された動物たちが新しい家族との出会いを目指す。第二部・第三部では、殺処分ゼロを達成した台湾の取り組みや、ペット先進国イギリスでの新しい試みなど、世界各地で進む犬や猫の保護活動の最前線を紹介する。

番組を通して、ひとつひとつのかけがえのない命を見つめるとともに、日本、世界の保護活動などから見えてきた「人と犬・猫の新たな関係」を提示し、人とペットが互いに命を育み、寄り添える社会を目指す。

(詳細は報道資料を参照)